

2021 年度実施概要

学校名

気仙沼市立鹿折小学校

採択活動名

海で復興「気仙沼の魅力」発信プロジェクト

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 鹿折の宝～人・自然・ものを見つけよう～	3年	海と生きる探究活動
2. 山・川・海～命をつなぐ鹿折川～	4年	海と生きる探究活動
3. 世界とつながるぼくらの海郷学	5年	海と生きる探究活動
4. 海で復興「気仙沼の魅力」発信プロジェクト	6年	海と生きる探究活動

取り組みの概要

1 実践の概要

本校は「志高く、自ら考え、持続可能な社会をたくましく拓く児童を育む、ESDの推進」を活動テーマとして、地域の人と触れ合い、自然・文化・産業に関わりながら、ふるさと気仙沼への思いや考えを深め、自分の考えを表現し、課題解決に向けて協働して活動することができる「持続可能な社会の創り手」としての児童の育成に取り組んでいる。

学校経営ビジョンのベースにESDを置き、教育活動全体を通したESDの実践を通して、ユネスコスクールが重点を置く3つの分野のうち、「②持続可能な開発および持続可能なライフスタイル」、「③異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重」を意識しながら、①自分の考えをもつ力【創意】、②人を大切にする力【誠意】、③自らかかわる力【善意】、④チャレンジする力【熱意】の4つの資質・能力の育成に努めた。

具体的には、「環境」「生命」「文化」「安全」を具体実践の柱に据え、①身近な自然や人と触れ合う活動、②地域素材を活用しふるさとを知る活動、③教科・領域を横断的・探究的に学び表現力を育む学習、④他地域や世界とのつながりから知識や考えを広げ深める学習を行った。

(1) 身近な自然や人と触れ合う活動

低学年では五感を使った自然体験をテーマに、1年生では、気仙沼大島の小田の浜で貝殻やシーグラスを拾う活動、2年生では、舞根森里海研究所で海の生き物に親しむ活動を行った。児童が様々な不思議に出会い、豊かな気付きや疑問を引き出すことができた。また、体験して得た気付きや疑問は、音楽や図画工作の教科の表現活動に生かすことができた。

(2) 地域素材を活用しふるさとを知る活動

4年生は、「命を育む水」をテーマに鹿折川の環境調査を行った。また、湧き水を利用して米作りを営む農家の指導を受け、稲作りを体験する活動を行った。地域の米作り農家の方と連携しながら鹿折川の豊かな水を利用して人と水とのつながりについて考え、地域のよさと食物への感謝の気持ちを育むことができた。3年生では、気仙沼市の伝統的な祭りや文化など、地域の宝について調べた。例年気仙沼市の岩井崎で開かれる「天旗まつり」の意味と祭りに込める願いや思いについて学びながら天

旗づくり体験を行った。活動を通して、地域のよさに触れながら児童の地域を大切に思う気持ちを育むことができた。稲作体験を行った4年生は、豊作と地域の自然を育む鹿折川の環境を大切に守っていかうとする願いを込めて、案山子作りを行った。地域の文化と共にある自然環境を自分たちで守っていかうとする思いを育むことができた。

(3) 教科・領域を横断的・探究的に学び表現力を育む学習

5年生では、特設領域「海と生きる探究活動」を核として教科横断的に学習を進めている。気仙沼市の漁業を支える「みらい造船」の造船工程について学び、「マグロ延縄船」の乗船体験を実施した。船を建造・修繕する人が漁師のためにどのような工夫をしているか、そして船に乗りマグロを獲る漁師は造船所で船を建造・修繕してくれる人にどのような思いをもっているか等、地域の産業が関わ合うことで成り立っているつながりを学ぶことができた。国語科や算数科の学習と関連させたことで、資料を整理・分析したり、分かりやすく相手に伝えたりするなどの資質・能力の向上に努めることができた。

(4) 他地域や世界とのつながりから知識や考えを広げ深める学習

6年生は、海洋教育「気仙沼の魅力発信プロジェクト」をテーマに、「スローフード都市宣言」をした気仙沼市の食の魅力について調べる学習を行った。活動の一環として、修学旅行にスローフード探究活動を取り入れ、気仙沼市と会津若松市の食材を組み合わせたオリジナル弁当を提案し、試食会を開いた。気仙沼市の食と内陸に位置する会津若松の食材を比較することで、気仙沼の食の魅力を再発見し、大切に守っていかうとする思いを育むことができた。また、3年生以上の学年が地球温暖化の影響で国が沈む恐れのあるキリバス共和国とオンライン交流会を実施した。キリバス共和国の小学生と、伝統や水、産業、まちづくりをテーマに話し合うことで、児童の多様性を尊重する意識を高めることができた。

2 今後の課題と計画

令和4年度は、教育課程特例校（海洋教育）の指定を受け3年目となる。探究的な学びの充実を図るために、地域・企業・大学などの機関と連携を深めていくとともに、グローバルとローカルの課題に当事者意識をもち、主体的に行動しようとする態度を育むと共に、他教科・領域横断的を横断的に学ぶカリキュラム改善も図っていく必要がある。今年度実施した、キリバス共和国との交流会をカリキュラムにどのように位置づけ、どのような力を高めたいかを職員間で共有し、目標に掲げる姿の実現に向けて系統立てて児童の力を育んでいきたい。

活動中の写真

デジタルデータにて2~3枚の添付をお願いします。

(本ファイルへ貼り付けた場合も、別ファイルでの添付をお願いします)